

Express5800 WSUS 導入セット

スタートアップガイド

発行日 : 2019/9/13

版数 : 1.1

目 次

目 次	2
1. はじめに	3
1-1 本文書の位置づけ	3
1-2 本文書の構成	3
1-3 本文書の読み方	3
2. サーバセットアップ手順	5
2-1 ビルトイン Administrator のパスワード変更	5
2-2 ネットワーク設定	6
2-3 Microsoft Update サイトとの同期	10
2-4 自動同期設定（同期スケジュールオプション）	11
2-5 WSUS サーバークリーンアップ（2 回実施）	12
2-6 自動承認の規則の実行	13
2-7 Report Viewer のインストール	14
3. クライアント PC 初期設定手順	18
3-1 ローカル グループ ポリシーの設定	18

Microsoft、Windows、Windows Server、Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

その他、記載されている会社名および商品名、システム名等は、各社の商標または登録商標です。

なお、本文書では™、®マークは記載していません。

1. はじめに

1-1 本文書の位置づけ

本文書は、下記対象商品（以降、本サーバ）をご購入されたお客様にご利用いただく文書です。
本文書は本サーバをお客様社内に設置しネットワークの結線を行った後に実施いただく手順のサンプルです。本文書の手順内容をご確認いただき、必要に応じて手順の実施・設定変更を行ってください。
本文書には、本サーバのセットアップ手順とクライアント PC の初期設定手順が含まれます。


品名コード	品名	JAN コード
NP8100-2662YPCY	Express5800/T110j-S(4C/E-2124-W2016-WSUS)	4549815977320
NP8100-2662YPDY	Express5800/T110j-S(4C/E-2124-W2016DG-WSUS)	4550161016892

1-2 本文書の構成

第 1 章	本文書の位置づけ、構成、および関連文書について説明します。
第 2 章	本サーバのセットアップ手順について説明します。 ネットワーク設定や Microsoft Update サイトとの同期などが含まれます。
第 3 章	クライアント PC の初期設定手順について説明します。クライアント PC が Windows Server Update Services（WSUS）から更新プログラムを取得するための設定です。
第 4 章	本文書記載の用字・用語について説明します。

1-3 本文書の読み方

本文書で使用されているアイコンは次の意味があります。

アイコン	説明
	本サービスを利用する上での気を付けていただきたい注意内容を記載しています。



本サービスを利用する上での補足内容を記載しています。

2. サーバセットアップ手順

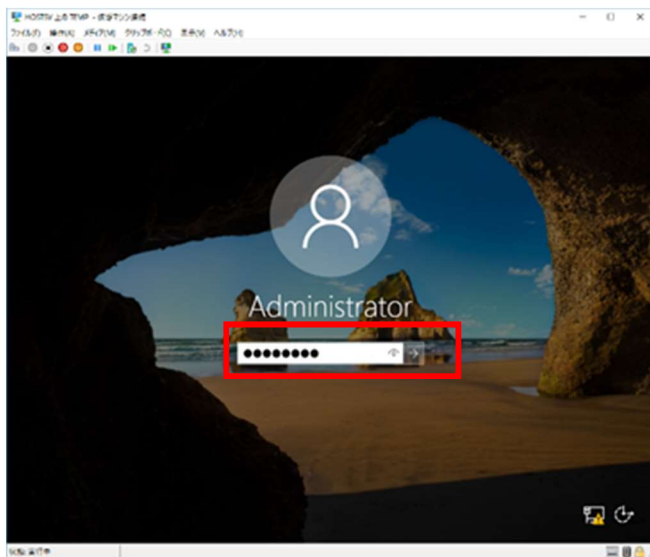
お客様に設置する本サーバのセットアップ手順について説明します。

2-1 ビルトイン Administrator のパスワード変更

ビルトイン Administrator のパスワードを以下の手順で、初期値から変更してください。

1. 本サーバの電源ボタンを押します。
2. ロック画面が表示されたら、Ctrl+Alt+Del キーを押してロックを解除します。
3. サインイン画面が表示されますので、パスワードボックスに初期パスワードを入力し、Enter キーを押します。

※初期パスワードは、本サーバ添付品箱の中にある「開梱時の注意事項及び初期パスワード」に記載されています。



4. Administrator アカウントでサインインした状態で Ctrl+Alt+Del キーを押して「パスワードの変更」を選択します。

古いパスワードと新しいパスワードを入力して Enter キーを押します。

2-2 ネットワーク設定

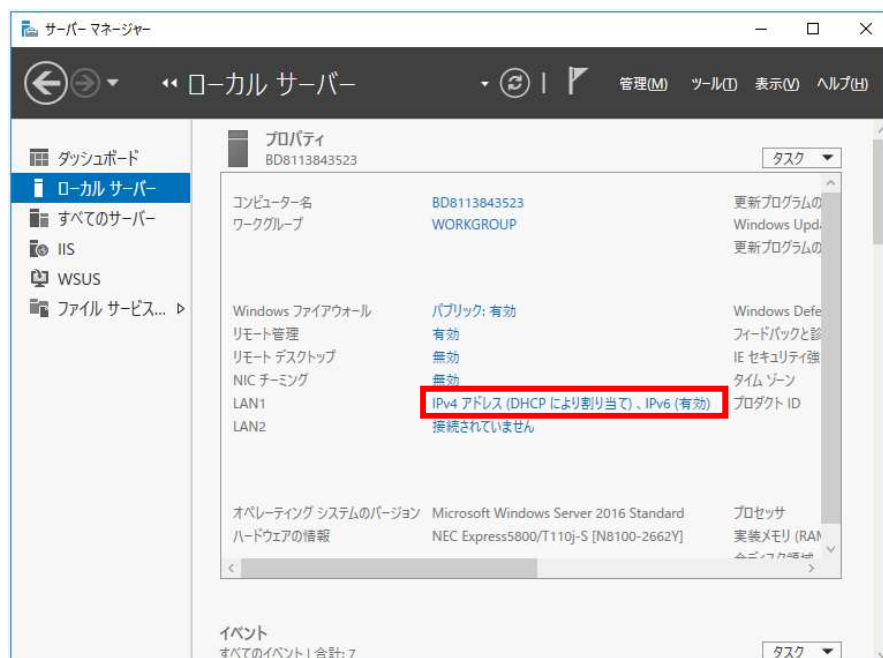
本サーバをお客様のネットワーク環境に接続するための設定手順です。必要な設定項目について、事前に確認してから作業を実施してください。なお、本手順は下記の設定項目を設定する手順です。

設定項目：IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、

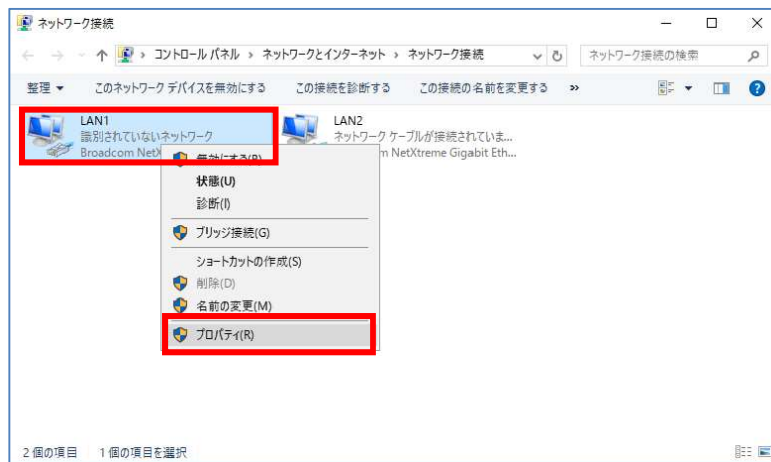
優先 DNS サーバー、代替 DNS サーバー

1. サーバーマネージャ画面の左ペインで「ローカル サーバー」をクリックし、右ペインにローカルサーバーのプロパティ画面を表示します。

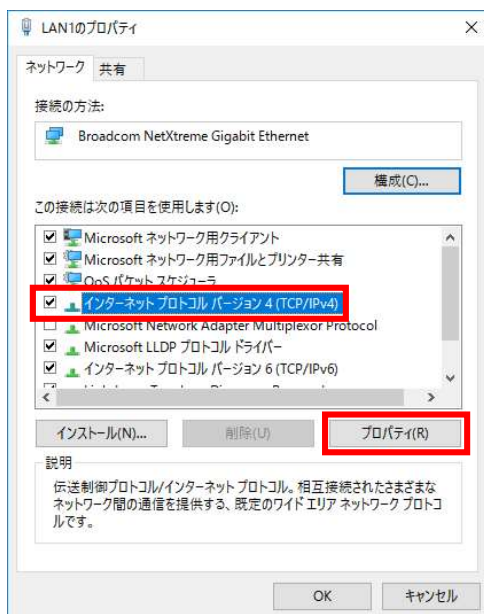
※サーバーマネージャが起動していない場合は、左下のスタートメニューからサーバーマネージャを起動します。
2. ローカルサーバーのプロパティ画面で、接続するネットワーク（例：LAN1）の設定リンクをクリックします。



3. ネットワーク接続ウィンドウが開いたら、ローカルエリア接続ネットワークアイコンを
右クリックして、プロパティを選択します。



4. ローカルエリア接続（例：LAN1）のプロパティ画面が表示されますので、ネットワークタブの
「インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)」を選択し「プロパティ」をクリック
します。



5. 「インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)のプロパティ」の画面が表示されたら以下を実施します。

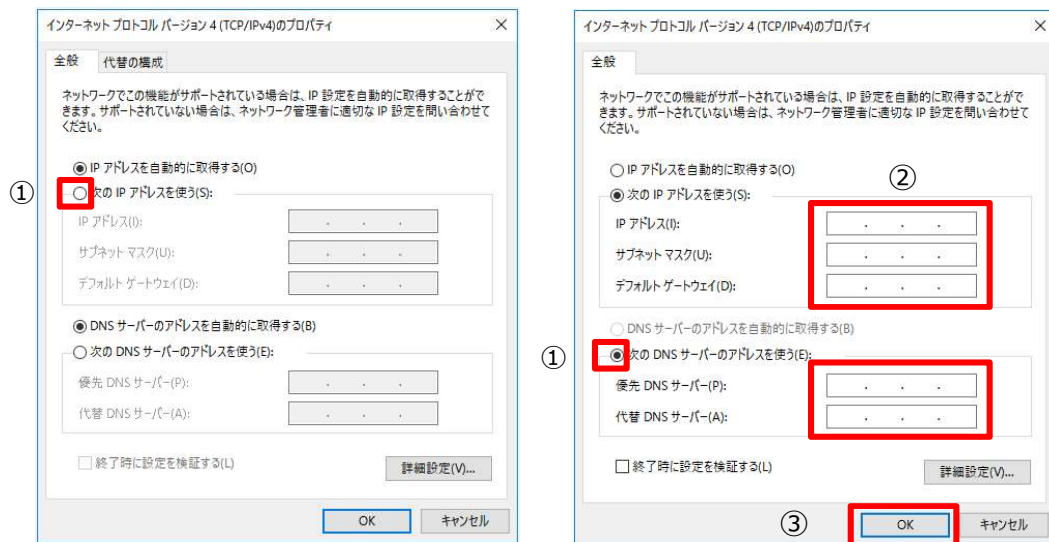
①全般タブで「次の IP アドレスを使う」を選択します。

この操作と連動して、「次の DNS サーバーのアドレスを使う」も選択されます。

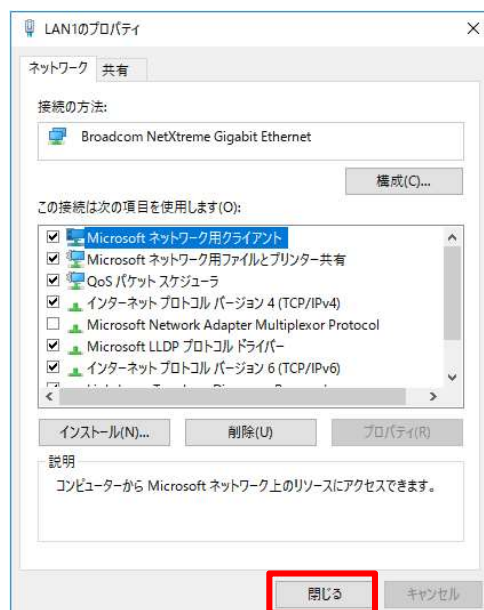
②「IP アドレス」「サブネットマスク」「デフォルトゲートウェイ」

「優先 DNS サーバー」「代替 DNS サーバー」に設定値を入力します。

③入力に間違いがないかを確認し、「OK」をクリックします。



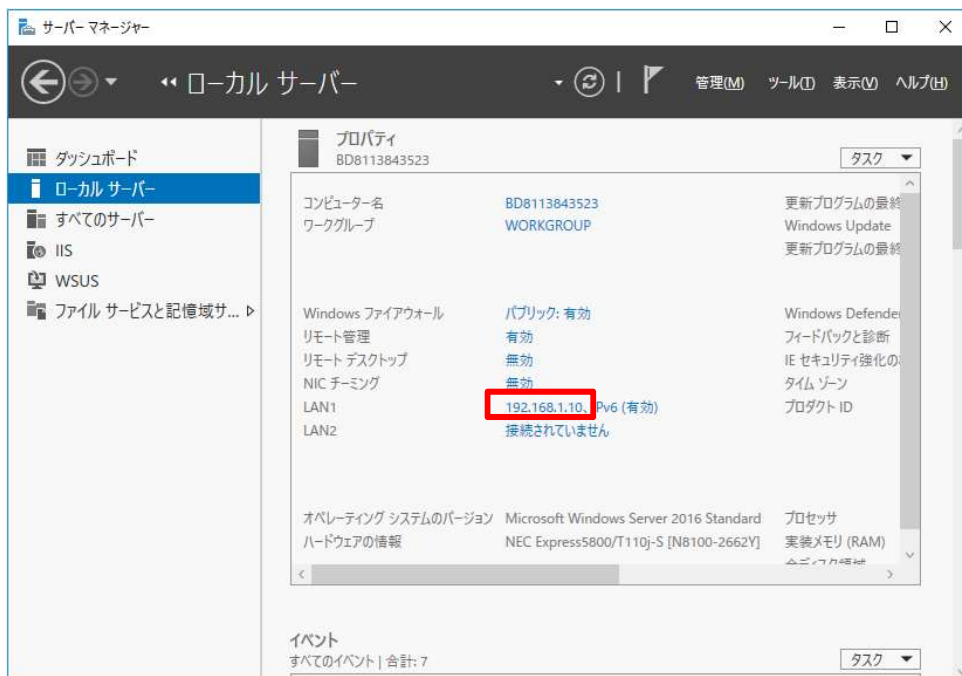
6. ローカルエリア接続（例：LAN1）のプロパティ画面で、「閉じる」をクリックして画面を閉じます。



7. ネットワーク接続ウィンドウを閉じます。



※サーバー マネージャーのローカル サーバのプロパティ画面で、接続するネットワークの設定リンクに、設定した IP アドレス（例：192.168.1.10）が表示されます。



2-3 Microsoft Update サイトとの同期

WSUS と Microsoft Update サイトの同期を実施してください。自動承認の更新プログラムのダウンロードが開始されネットワーク負荷がかかる可能性がありますので、時間帯に考慮して実施ください。

1. サーバーマネージャー画面で、「ツール」 → 「Windows Server Update Services」をクリックし、WSUS を起動します。
※サーバーマネージャーが起動していない場合は、左下のスタートメニューからサーバーマネージャーを起動します。

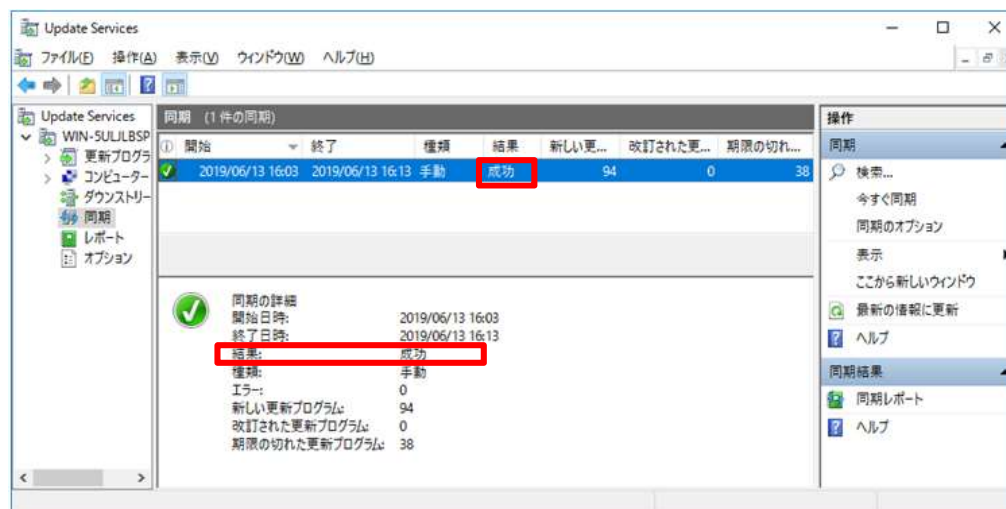
2. ①WSUS 画面で、左ペインの「同期」をクリックし同期メニュー画面を表示します。
②右ペインの「今すぐ同期」をクリックし、Microsoft Update サイトとの同期を開始します。



Microsoft Update サイトとの同期が開始されますので、完了するまでしばらく待ちます。

※真中ペインの下部の同期状態に「状態：同期中…、進行状況：* * %」と表示されます。

3. 同期が完了すると、真ん中ペインに同期結果が表示されますので、結果の欄に「成功」と表示されていることを確認します。



2-4 自動同期設定（同期スケジュールオプション）

WSUS と Microsoft Update サイトを自動的に同期させる場合は、本手順を実施ください。

※同期は手動のみにする場合は、本手順は不要です。

本手順を実施することで、「1 日に 1 回、Microsoft Update サイトと自動的に同期を行う」という動作になりますが、同期の頻度を減らしたい場合等は適宜設定値を変更してください。

1. WSUS 画面で左ペインの「オプション」をクリックしてオプションメニュー画面を表示します。

2. 真中ペインで「同期スケジュール」をクリックします。

3. 自動同期の設定を行います。

①「自動で同期する」を選択します。

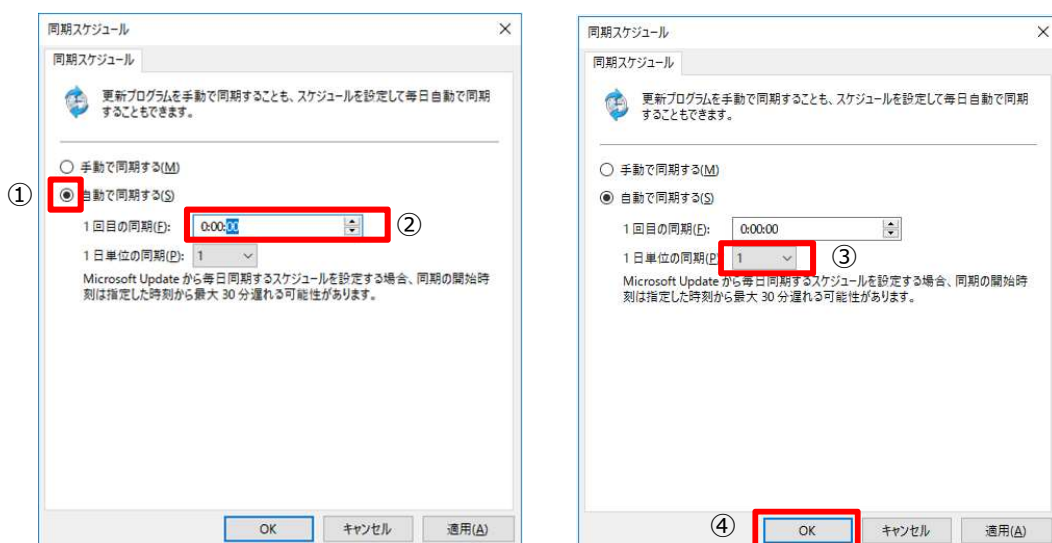
② 1 回目の同期時刻を設定します。（画面の例は「0 時 0 分 0 秒」です）

※時・分・秒の数字をクリックして反転させた状態で上下ボタンを押すと数字が変わります。

また直接数字を入力することも可能です。

③ 1 日単位の同期で「1」をプルダウン選択します。同期回数は 1～24 まで選択可能です。

④ OK ボタンをクリックします。

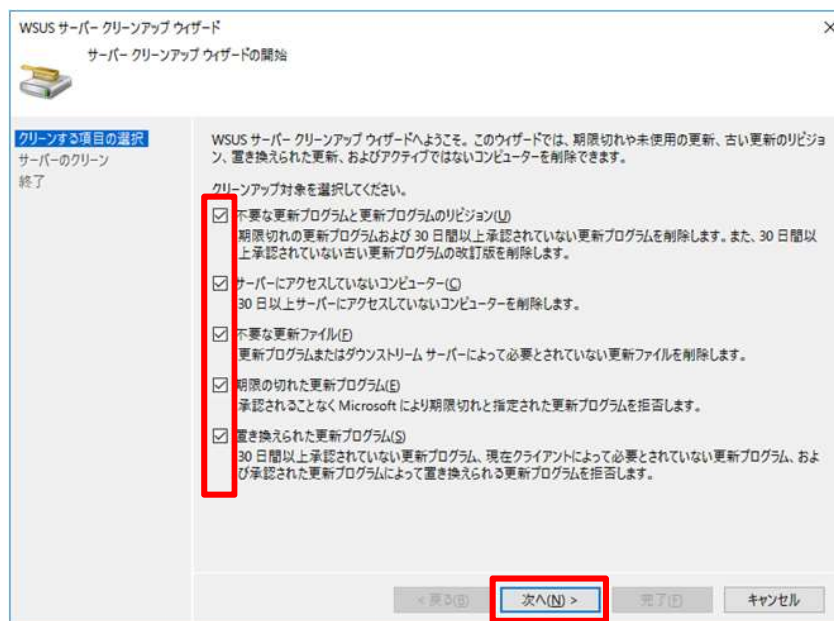


2-5 WSUS サーバークリーンアップ（2回実施）

本サーバの出荷時から時間が経過し情報が更新されている可能性があるため、以下を実施してください。

1. WSUS 画面で、左ペインの「オプション」をクリックしオプションメニュー画面を表示します。
2. 真中ペインで「サーバー クリーンアップ ウィザード」をクリックします。
3. サーバー クリーンアップ ウィザード画面で以下のすべてにチェックを入れて、「次へ」をクリックします。※「次へ」をクリックするとデータの削除が開始されます。

- ☒ 不要な更新プログラムと更新プログラムのリビジョン
- ☒ サーバーにアクセスしていないコンピュータ
- ☒ 不要な更新ファイル
- ☒ 期限の切れた更新プログラム
- ☒ 置き換えられた更新プログラム



※「サーバークリーン中」の画面が表示されますが、完了するまでしばらく待ちます。

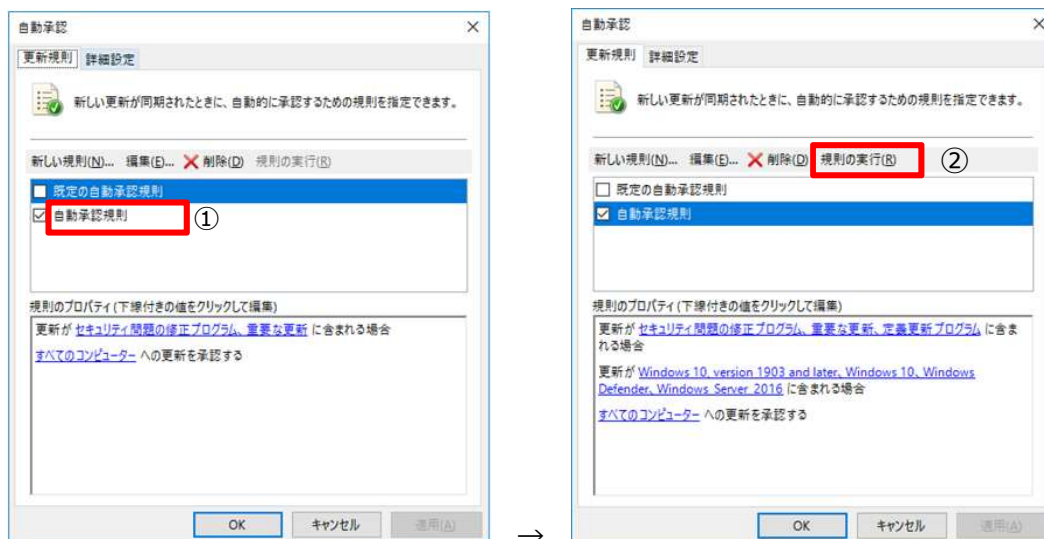
4. クリーンアップ完了のメッセージが表示されたら、「完了」をクリックします。
5. WSUS サーバークリーンアップ作業の No.1～4 を、もう一度実施します。

2-6 自動承認の規則の実行

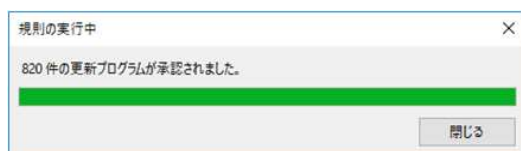
本サーバにダウンロード済みの更新プログラムのリストに自動承認ルールを適用するために、本手順を実施してください。

なお、ルールを適用することで更新プログラムのダウンロードが開始されネットワーク負荷がかかる可能性がありますので、時間帯に考慮して実施ください。

1. WSUS 画面で、左ペインの「オプション」をクリックしオプションメニュー画面を表示します。
2. 真中ペインで「自動承認」をクリックします。
3. ①「自動承認」の画面が表示されますので、「自動承認規則」を選択します。
②「自動承認規則」が選択されている状態で「規則の実行」をクリックします。



4. 「自動承認規則を実行しています」というメッセージが表示されますが、しばらく待ちます。
実行が完了して下記のようなメッセージが表示されたら「閉じる」をクリックして終了します。



5. 「自動承認」の画面で「OK」をクリックして画面を閉じます。

2-7 Report Viewer のインストール

WSUS のレポート機能をご利用の場合は、Report Viewer のインストールが必要となりますので、本手順を実施ください。

※レポート機能を利用されない場合は、本手順は不要です。

1. 下記 2 種のコンポーネントをダウンロードし、本サーバ上の任意のフォルダにコピーします。

- ・ Microsoft System CLR Types for Microsoft SQL Server 2012 SP2

<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=43339>

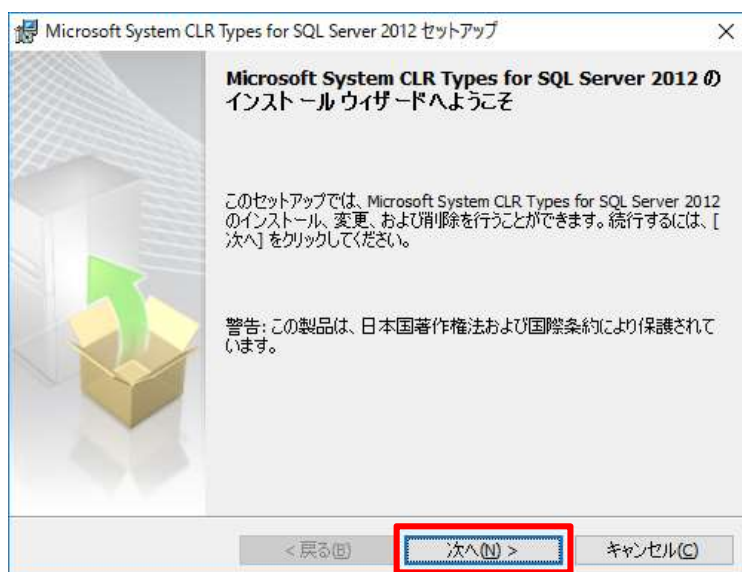
JPN¥x64¥SQLSysClrTypes.msi

- ・ Microsoft Report Viewer 2012 Runtime

<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=35747>

ReportViewer.msi

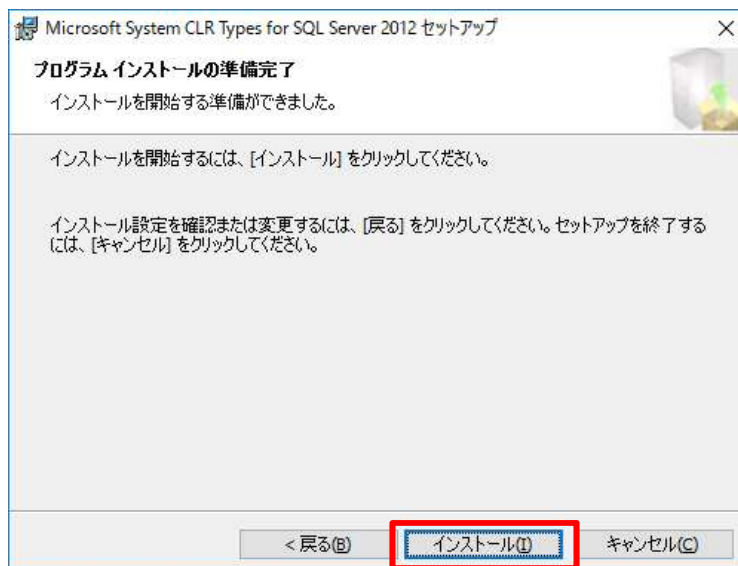
2. ダウンロードした「SQLSysClrTypes.msi」をダブルクリックし、下記の画面が表示されたら「次へ」をクリックします。



3. 使用許諾契約書が表示されますので、内容確認のうえ「同意する」にチェックを入れ、「次へ」をクリックします。

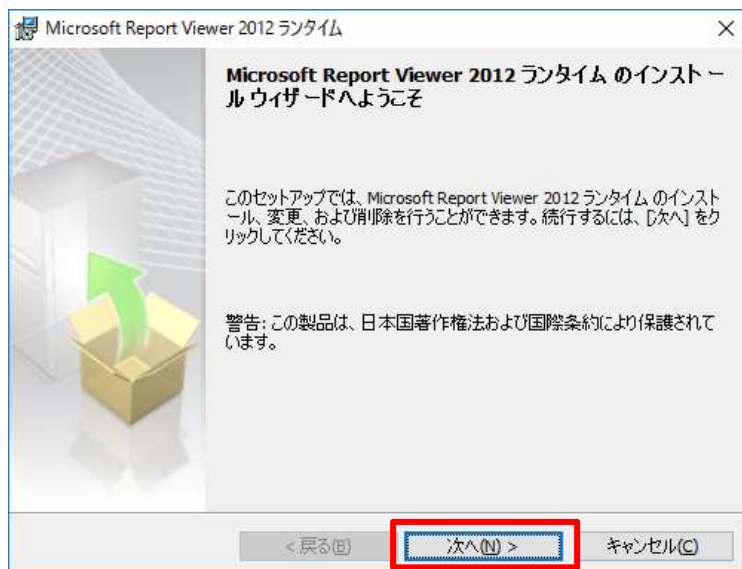


4. 「プログラム インストールの準備完了」が表示されますので、「インストール」をクリックします。

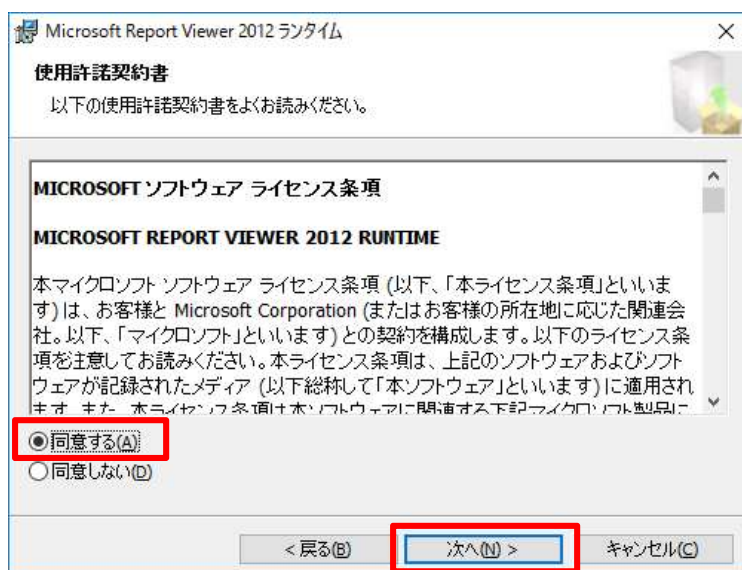


5. 「Microsoft System CLR Types for SQL Server 2012 のインストールの完了」が表示されますので、「完了」をクリックして、ウィンドウを閉じます。

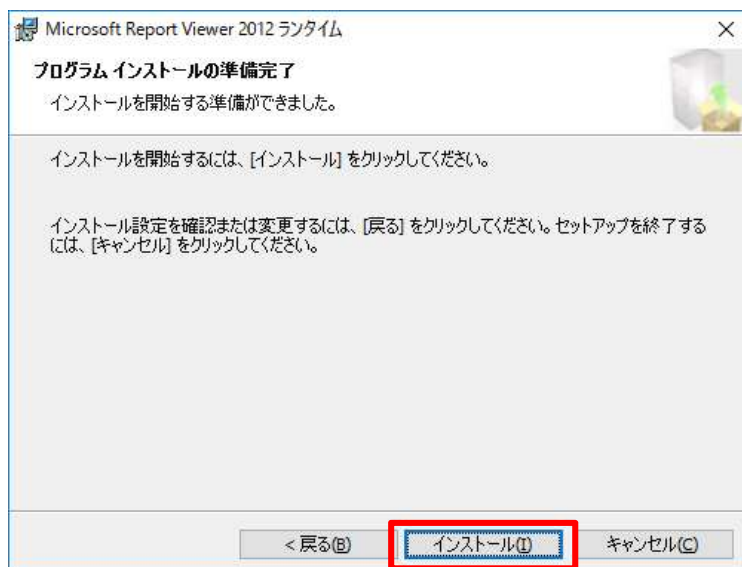
6. ダウンロードした「ReportViewer.msi」をダブルクリックし、下記の画面が表示されたら「次へ」をクリックします。



7. 使用許諾契約書が表示されますので、内容確認のうえ「同意する」にチェックを入れ、「次へ」をクリックします。



8. 「プログラム インストールの準備完了」が表示されますので、「インストール」をクリックします。



9. 「Microsoft Report Viewer 2012 ランタイムのインストールの完了」が表示されるので、「完了」をクリックして、ウィンドウを閉じます。

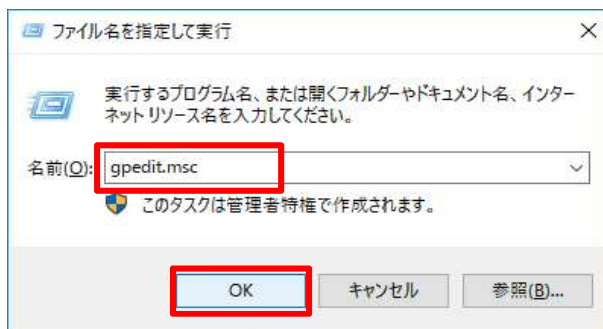
3. クライアント PC 初期設定手順

本章では、クライアント PC が WSUS から必要な更新プログラムをダウンロードするために行う、クライアント PC の初期設定手順について説明します。更新プログラムの配信対象となるすべての PC に対して本手順を実施いただきます。

なお、以下の手順は Windows 10 PC の管理者権限における設定例です。
適宜必要な設定を実施してください。

3-1 ローカル グループ ポリシー の設定

1. 左下のスタートメニューを右クリックし、「ファイル名を指定して実行」を選択します。
名前の欄に「gpedit.msc」と入力して「OK」をクリックし、
ローカル グループ ポリシー エディターを起動します。



※ユーザアカウント制御警告が出た場合は、「はい」をクリックします。

2. ローカル グループ ポリシー エディターの左ペイン（ツリービュー）で、
[コンピューターの構成] → [管理用テンプレート] → [Windows コンポーネント] →
[Windows Update] を選択し、右ペインに[Windows Update]を表示します。
[イントラネットの Microsoft 更新サービスの場所を指定する]を右クリックして編集を選択
し、[イントラネットの Microsoft 更新サービスの場所を指定する]ウィンドウを開きます。

3. 「有効」を選択し、以下のオプションを入力し、「OK」をクリックします。

- ・更新を検出するためのイントラネットの更新サービスを設定する

[http://***.***.***.***:8530]

- ・イントラネット統計サーバーの設定

[http://***.***.***.***:8530]

※ 「***.***.***.***」には本サーバの IP アドレスを入力します。

イントラネットの Microsoft 更新サービスの場所を指定する

前の設定(P) 次の設定(N)

☐ 未構成(C) コメント:

☒ 有効(E)

☐ 無効(D)

サポートされるバージョン: Windows XP Professional Service Pack 1 または Windows 2000 Service Pack 3 以降 (Windows RT を除く)

オプション:

更新を検出するためのイントラネットの更新サービスを設定する:
http://***.***.***.***:8530

イントラネット統計サーバーの設定:
http://***.***.***.***:8530

代替ダウンロード サーバーの設定:

(例: http://IntranetUpd01)

代替ダウンロード サーバーが設定されている場合は、メタデータに URL が示されていないファイルをダウンロードします。

ヘルプ:

Microsoft Update からの更新プログラムをホストするイントラネットサーバーを指定します。この更新サービスを使用して、ネットワーク上のコンピュータを自動的に更新できます。

この設定を使うと、内部の更新サービスとして機能する、ネットワーク上のサーバーを指定できます。自動更新のクライアントは、このサービスにアクセスし、ネットワーク上のコンピュータに適用できる更新プログラムを検索します。

この設定を使用するには、2 つのサーバー名を設定する必要があります。自動更新のクライアントが更新プログラムを検出してダウンロードするためのサーバー、そして更新が完了したワークステーションが統計をアップロードするためのサーバーです。両方に同じサーバーを設定することもできます。オプションのサーバー名の値を指定することにより、イントラネットの更新サービスではなく代替ダウンロードサーバーから更新プログラムがダウンロードされるように Windows Update エージェントを構成することもできます。

状態が有効に設定されている場合、自動更新のクライアントは Windows Update ではなく、指定されたイントラネットの Microsoft 更新

OK キャンセル 適用(A)

4. 右ペインの[Windows Update]で、[イントラネットの Microsoft 更新サービスの場所を指定する]の状態が「有効」になったことを確認します。

5. ローカル グループ ポリシー エディターを閉じて PC を再起動し、通常通りサインインを行います。



- クライアント PC の初期設定が完了してしばらく経つと、WSUS コンソール画面上に設定したコンピュータが表示されます。